

令和8年度

板野南小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 話す、聞く、書く、読む力を高める。(目的意識をもち、筋道を立てて自分の考えを伝える。)
- 主体的に学習に取り組むことができる児童の育成。

校長

山口 裕司

学力向上推進員

北尾 教子

【各校の取組状況の把握について】

研修の機会を生かして、取組み状況について報告する場をもつ。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算の基礎基本が身につけている児童が多い。 ●漢字の筆順や正しく書く力、活用に課題を感じる。 ●個人差は大きい、文章を書くときに習った漢字を使えていないことがある。	(低)習った漢字を文章を書くときに正しく使うことができる。 (中)習った漢字を日記などの文章を書くときに活用することができる。 (高)既習事項を活用して文章を書いたり計算したりすることができる。 文章を読んでいるときに必要な言葉や大切な言葉を読み取ることができる。	(低)新出漢字を学習するときに、その漢字を使った文作りをさせる。 (中)学力アップタイムで既習漢字の復習を繰り返し行えるようにする。 (高)既習漢字を使って日記を書くように指導する。 前学年の学習内容を扱った課題を出す。 文章を読んでいるときに必要な言葉や大切な言葉に線を引くように指示する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ハンドサインを活用して、自分の思いを伝えることができる。 ○自分の思いや考えを書いたり、発表したりして進んで表現できる児童が多い。 ●自分の考えを根拠をもとに伝えることを苦手とする児童が多い。 ●読解力が乏しく、聞かれていることに対して正しく答えられない。	(低)自分の考えを理由をつけて相手に伝えることができる。 (中)自分の考えを根拠をもとに発表することができる。 (高)読んだ文章の内容を確実に理解することができる。	(低)スピーチの時間を設け、話し方の話形を意識させる。 (中)発問の仕方を工夫し、ハンドサイン、話型の徹底をする。 子ども新聞を読み、ペアで記事について話す時間を設ける。 (高)音読課題の内容を問う問題を追加する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○最後まで諦めずに学習に取り組もうとする児童が多い。 ○タブレットを活用して学習できる児童も多い。 ●自分から課題や問題点を見つけたり考えたりする意識が低い。 ●見直しや丁寧に取り組む習慣づけができるとうい。	(低)一つ一つの課題や活動を意欲的に丁寧に取り組むことができる。 (中)自分から課題や問題点を見つけ、解決しようとする。 (高)自主学習の際、自分に合った(必要な・苦手な)学習に取り組む。	(低)自分でできたことに気付かせる仕組みとして「ポイント制」を取り入れる。 (中)タブレットを活用して、主体的に課題に取り組む習慣をつけさせる。 (高)自主学習の手引き・例を掲示・配布する。			